

会 議 録

1 会議名

令和7年度第1回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 令和6年度事業報告について（公開）
- (2) 令和7年度事業計画について（公開）
- (3) 令和7年度事業訪問について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和7年4月23日（水） 午前9時30分～11時45分

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室1・2

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：茨木委員、江村委員、大山委員、亀山委員、北澤委員、
佐野委員、高橋委員、土屋委員、名川委員、松井委員、森田委員、
山川委員、山崎委員、渡邊委員
- ・ 事務局：早川教育長、福山社会教育課長、加藤参事、宮崎参事、
長谷川中央公民館長、北澤係長、町田係長、池田係長、
石田青少年健全育成センター所長、山田副主幹、増田主任、
岩片主任

8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会
- (2) 委嘱状の交付
- (3) 早川教育長挨拶
- (4) 委員長、副委員長の選出

委員より事務局案はあるかとの声があり、事務局が、委員長には渡邊委員、副委員長には亀山委員を提案し、それぞれ承認された。

(5) 議 事

①令和6年度事業報告について

— 資料No.1 に基づき事務局説明 —

茨 木 委 員：謙信KIDSプロジェクトについて、申込人数740人、延べ参加者が1,750人と記載があるが、全員受け入れたということか。

事 務 局：希望者には、第1希望と第2希望を申込んでもらい、定員を超える申込のあった講座は抽選を行っている。抽選から外れた人は第2希望の講座に空きがあれば、第2希望の講座に参加できる。それでも叶わない人は落選となる。

江 村 委 員：その年に落選となり参加できなかった人は、翌年度優先的に参加できたり、6年生を優先したり配慮はしているのか。

事 務 局：そのような配慮はしていない。ただし、1回参加した講座には、次年度以降は参加できないこととしており、多くの人が参加できるようにしている。また、昨年度から申込した人全員に、小学生が参加できる市の事業を掲載した一覧を申込結果の通知に同封し、謙信KIDSプロジェクト以外でも小学生が参加できる講座やイベントなどの情報を提供している。

江 村 委 員：人気の講座とあまり人気のない講座があると思うが、申込状況を見て、翌年度、工夫していることはあるか。

事務局：翌年度の募集案内に前年度の申込状況を星印数で表記し、応募の参考としてもらっている。

江村委員：以前は、吉川区でパラグライダーの講座をやっていたと記憶している。参加したくても会場まで遠く、参加できない子供もいるのではないか。

事務局：パラグライダーの講座は、以前行っていたが、危険が伴い、引率職員では対応しきれないことや暑い時期であり熱中症の危険もあるため、現在は行っていない。遠くから来る方への配慮については、教育プラザなど集合場所を設け、そこから現地へバスで向かうこととしている。

森田委員：直江津図書館の本が、時々タバコ臭い。ページをめくると匂いがする本があるが、匂いを消す工夫はしていないのか。

事務局：次の利用者が不快な思いをしない対策を図書館職員と相談しながら、検討していきたい。

※直江津図書館に伝え、返却時に破損等の確認同様、匂いの確認もすることとした。

森田委員：今年度も二十歳を祝うつどいに参加したが、みんな華やかで美容関係の業者にも経済効果があると感じた。式典も大事だが、もっと若者に予算をかけてもよいのではないか。会場に集まった人が上越市に住んでもらえるよう市のホームページに地元企業の求人を出し、もっとPRできるよう企業と連携してはどうか。

事務局：当課としても地元に戻ってきてほしいという思いを持っている。地元企業や商工会議所等と連携して何かできないか次年度以降に向けて検討していきたい。

高橋委員：二十歳を祝うつどいの座席について、出身中学校ごとになっているが、実行委員の希望なのか、それとも運営側の都合なのか。特別支援学校がいつも入口側である。また、高校の友人と座りたい人もいるのではないか。

事務局：座席については、事務局で設定している。中学校ごとにエリアが決まっているとそこを目掛けて入場してもらえるメリットがあり、自由席にすると前の席が埋まらなかったり、入口で止まって混雑したりする。時間内にスムーズに入場してもらえるよう人数を考慮し、中学校ごとにエリアを決めている。ただ、目安であり、必ずそこに座らなくてはならないわけではない。

山川委員：特別支援学校の席が入口側であることは、出入りしやすくよいと思う。

亀山委員：中学時代の友人に久しぶりに会えてうれしかったという人もいたが、中学校の繋がりでは馴染めない人もいると感じる場面もあった。

江村委員：コロナ禍前は、保護者も入場できたが、今後、入場できるようにするのか。

事務局：以前は、会場の2階で見学可としていたが、コロナ禍もあり、ここ数年保護者の入場を制限している。帰りの際に入口付近で保護者が待つことで混雑していたこともあり、参加者から安全に時間内に会場に入場してもらい、事故等無く終えることを考えると、今後も、対象者のみとしていきたい。

大山委員：二十歳を祝うつどいの事業以外もそうだが、事業の評価が、活動の評価になってあり、目的に対しての評価になっていない。

事務局：評価については、委員のおっしゃる通りである。今後はそのような視点も記載する。

土屋委員：大山委員の意見同様であるが、目的に対するアンケートとなるようアンケートの内容も見直すべきである。

事務局：アンケートの内容についても、今後検討していく。

②令和7年度事業計画について

— 資料No.2 に基づき事務局説明 —

松井委員：公民館事業について、事業の柱の2本目に「未来をひらく人づくり」とあり、スキー教室がある。現在、少子化の影響やインストラクターを依頼する金額が高額であり、スキー授業を廃止する学校が増えている。そのような中、スキー発祥の地としてスキー教室を実施することは意味があり、素晴らしいことである。

森田委員：市展や県展の会場は、オーレンプラザやミュゼ雪小町、教育プラザの体育館である。上越市の美術展の核となる場所、どこを目指しているのか。年間を通して上越市民の優れた作品に触れることができる場所があるとよい。

事務局：上越市には、美術専門の建物がないため、常設展示は難しい。市展、県展ともに作品数を考えると、現在の会場がベストだと考えている。

江村委員：写真部門で18歳未満の出展数が大幅に増加したことは、上越高校の写真部の出展が多かったからだと思うが、他の高校の美術部や写真部にも、もっと出展してもらえようアプローチできないか。

事務局：高校部活動への出品依頼は毎年行っているが、高等学校文化祭の時期と重なり、生徒は文化祭を目標に作品作りをしているようである。今後も出展について依頼していく。

③令和7度事業訪問について（質疑なし）

— 資料No.3に基づき事務局説明 —

④その他

■令和7年度社会教育委員に関する会議等日程について（質疑なし）

— 資料No.4に基づき事務局説明 —

(6) その他

■各種役員・委員等の選出について（質疑なし）

— 渡邊委員長説明 —

(7) 閉会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL : 025-545-9245 (内線 2741)

E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。